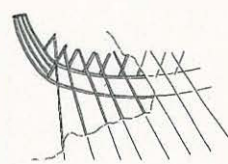


平成 26 年度ひろしまの遺跡を語る



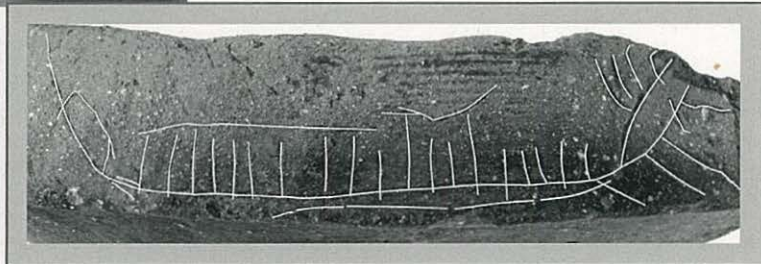
弥生時代の船



—大航海時代のさきがけ—



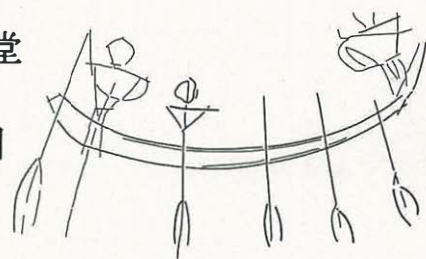
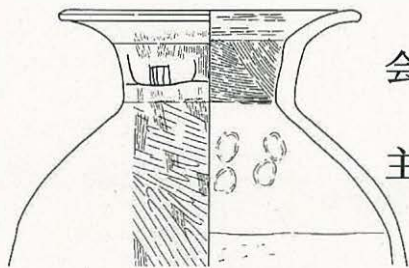
資料集



日 時 平成 27 年 1 月 24 日 (土) 13:00~16:00

会 場 広島県立美術館 地下1階 講堂

主 催 公益財団法人 広島県教育事業団



日 程

- 13:00~13:10 開会行事
- 13:10~13:35 報 告 I
 「弥生時代の船の絵が見つかった御領遺跡(第7次)の発掘調査」……(1)
 (公財) 広島県教育事業団埋蔵文化財調査室 主任調査研究員 尾崎 光伸
- 13:35~14:00 報 告 II
 「御領遺跡の土器に描かれた弥生時代の船を考える」 …………… (5)
 (公財) 広島県教育事業団埋蔵文化財調査室 室長 伊藤 実
- 14:00~15:00 講 演
 「描かれた日本古代の船」 …………… (9)
 前奈良文化財研究所副所長(現客員研究員)・天理大学客員教授
 深澤 芳樹
- 15:00~15:15 休 憩
- 15:15~15:50 座談会『御領遺跡の船の絵と古代の船』
 パネラー 深澤 芳樹, 伊藤 実, 尾崎 光伸
- 15:50~16:00 閉会行事

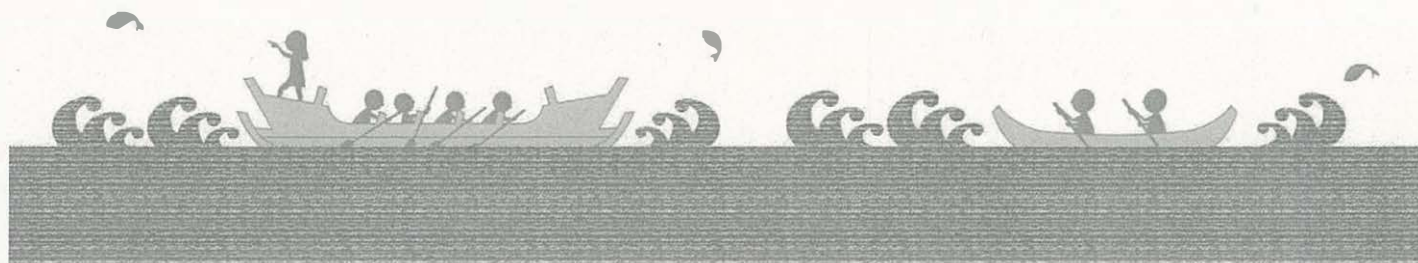
出土品の特別公開時間は 12:00~16:30 です。

表紙画像



【表紙画像の説明】

- 1 愛媛・樽味高木遺跡 土器の船絵画(弥生時代後期)
- 2 奈良・清水風遺跡 土器の船絵画(弥生時代中期)
- 3 福井・井向遺跡 銅鐸の船絵画(弥生時代後期)
- 4 鳥取・稲吉角田遺跡 土器の船絵画(弥生時代中期)
- 5 奈良・坪井・大福遺跡 土器の船絵画(弥生時代中期)
- 6 大阪・高廻第2号古墳 船形埴輪(古墳時代中期)
- 7 大阪・大庭寺遺跡 船形須恵器(古墳時代中期)
- 8 広島・御領遺跡 土器の船絵画(弥生時代後期)
- 9 東征伝絵巻(鎌倉時代・13世紀末)に描かれた外洋船
- 10 吉備大臣入唐絵巻(平安~鎌倉時代・12世紀末~13世紀初頭)に描かれた遣唐使船
- 11 古墳時代(5世紀)の渡来人の船想像図
- 12 法然上人絵伝(鎌倉時代・14世紀)に描かれた瀬戸内海を航行する船
- 13 弘法大師行状絵詞(南北朝時代・)に描かれた遣唐使船
- 14 岡山・津寺遺跡 土器の船絵画(古墳時代前期)
- 15 奈良・唐古・鍵遺跡 土器の船絵画(弥生時代中期)



**報告 I****弥生時代の船の絵が見つかった
御領遺跡 (第7次) の発掘調査**

(公財) 広島県教育事業団埋蔵文化財調査室 尾崎光伸

1 所在地と周辺の遺跡

御領遺跡は広島県福山市神辺町下御領から上御領にかけての南北1.4km, 東西1.6kmに広がる縄文時代後期～中世の集落遺跡である。

御領遺跡がある神辺平野は、世羅台地を源とする芦田川の下流域に高屋川・箱田川・加茂川・服部川などの小河川が流れ込んで形成された沖積平野で、平野部北側の丘陵上や丘陵裾部は県内有数の遺跡集中地域である。御領遺跡は、この神辺平野の東端に位置し、岡山県井原市から流れる高屋川の北側に広がっている。

近隣の弥生時代の遺跡としては、環濠集落として著名な亀山遺跡(前期前葉～)・大宮遺跡(前期中葉～)などがあり、御領遺跡でも環濠と考えられる溝が確認されている。

2 調査の概要

発掘調査は国道313号道路改良事業に伴って平成20(2008)年度から実施され、第7次調査は平成25年8月から平成26年1月まで実施した。第7次調査区は既存の道路で3つに分割されており、南からA・B・C区として調査を行った。調査面積は2,389㎡, 遺構面の標高はおよそ17.3～17.7mである。

調査の結果、A区とB区南端部では上下2層の遺構面があり、上層では奈良～平安時代、下層では弥生～古墳時代にかけての遺構・遺物が多数検出された。B区中央部からC区にかけては、上層遺構面は削平を受けたためか確認できなかった。検出した遺構は、上下層をあわせて掘立柱建物跡7棟、竪穴住居跡18軒、土坑65基、溝状遺構26条などである。遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・石器・鉄器などが出土したが、弥生時代後期以前の遺物は出土していない。

掘立柱建物跡はいずれもA区で確認された。柱穴内から出土した遺物などから、奈良時代後期を中心とする時期と考えられる。7棟のうち6棟は重複している部分があるものの主軸を南北にそろえており、一定の期間、建物配置にある程度の規格性があったものと思われる。井戸跡からは、奈良時代後期の土師器・須恵器のほか、円面硯の小片が出土した。

竪穴住居跡はB区からC区にかけて確認され、特に北側に集中している。時期は弥生時代後期前葉から古墳時代中期にかけてである。また、土坑は弥生時代後期から奈良時代後期までのものが確認され、B区北半部では、SK37など多量の弥生土器が出土した土坑が多くみられた。溝状遺構は、幅約0.6～1.0m、深さ約0.2～0.3mで比較的直線的に伸びているものが多くみられた。





遺構の時期は古墳時代前期 (S D 23) , 古墳時代後期 (S D 15・16) などである。いずれも流水に伴う砂の堆積は見られず、遺物の出土は少ない。

3 絵画土器が出土した S K 37 の概要

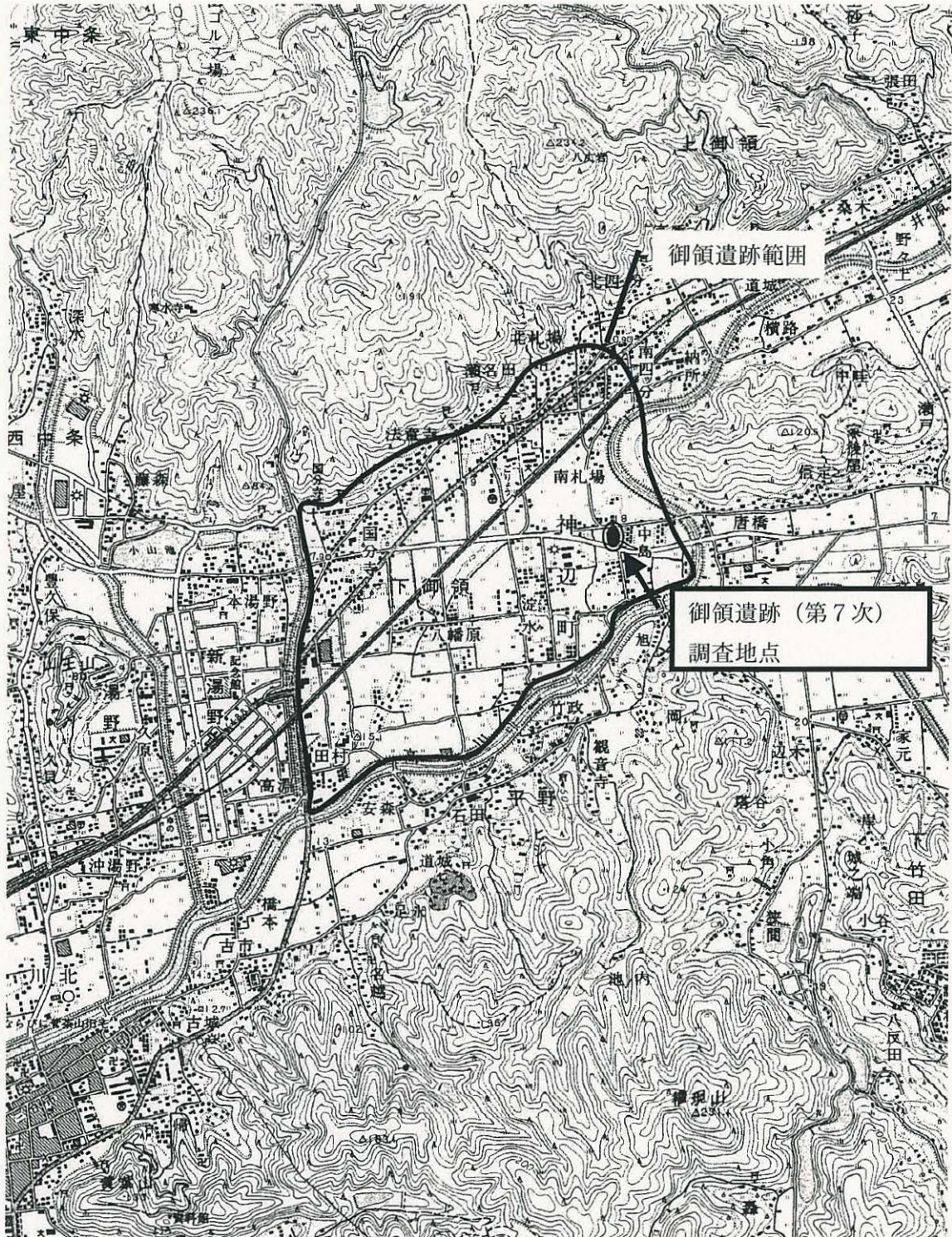
S K 37 は径約 3.0m、深さ約 0.8m の円形の土坑で、上層から多量の弥生時代後期後半頃の土器が出土した。遺物量はコンテナ (中) で 27 箱に及び、そのほか土製紡錘車 1 点、底部穿孔土器が数点出土した。遺物が集中している層の下面では多量の貝殻のほか、鹿の角が 1 点出土した。

4 まとめ

今回の調査では、南側で奈良～平安時代、北側で弥生～古墳時代の遺構が多く確認された。

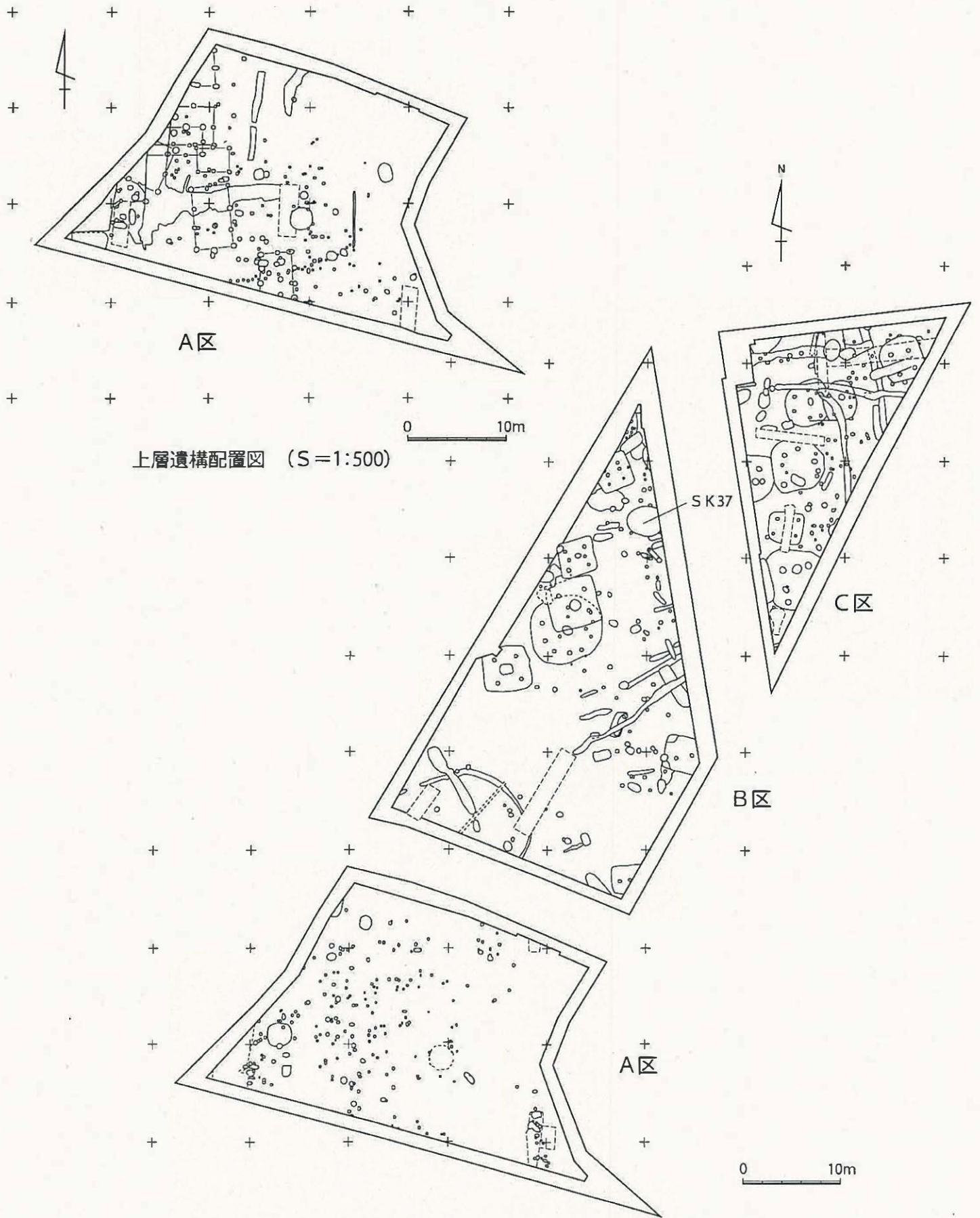
主に北側で確認された弥生～古墳時代の遺構は、今まで調査された御領遺跡の中でも際立って竪穴住居跡等の遺構が密集しており、今回調査した場所が御領遺跡にいくつかある大規模集落の中心部 (遺構密集部) の一つであったと考えられる。





御領遺跡 (第7次) 位置図 (1:25,000)





上層遺構配置図 (S=1:500)

SK37

御領遺跡(7次) 下層遺構配置図 (S=1:500)





報告 II

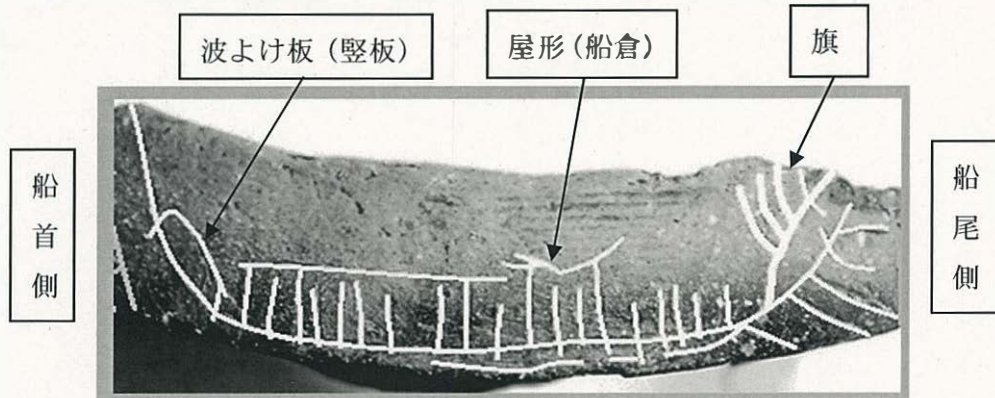
御領遺跡の土器に描かれた弥生時代の船を考える

(公財) 広島県教育事業団埋蔵文化財調査室 伊藤実

はじめに

公益財団法人広島県教育事業団では、平成 20 (2008) 年度から福山市神辺町御領地区の国道 313 号道路 (福山～神辺～井原) 改良事業に伴って、御領遺跡の発掘調査を実施しています。

昨年 (平成 26 年) 1 月に出土した弥生土器の破片を洗浄していたところ、8 月に船の絵を発見しました。



第 1 図 見つかった船の絵

1 船の絵の特徴とその評価

(ほぼ確実に解釈できる特徴)

土器の年代は、弥生時代後期後半 (2～3 世紀・今から約 1800 年前)。

土器は日常使われる壺で、墓にお供えするとかの特別な形の土器ではない。

絵の大きさは、縦 3 cm, 横 1.1 cm ほど。

船体は船首と船尾が反り上がった Gondola 形の船 (準構造船)。

船首が左、船尾が右。

船首に^{たていた}縦板 (波よけ板)、船尾に^{はたざお}旗竿と旗が描かれている。

開いた V 形で表現した屋根を持つ屋形 (船室・キャビン) が描かれている。

(上記の特徴から考えられる考古学的評価)

弥生時代の土器に描かれた船で、全体がわかる例は少ない。

屋形の表現がある弥生時代の船は初例。

(解釈が苦しい・・・,あるいは解釈が分かれる・・・特徴)

船板 (舷側板) は縦線で表現されたものか?

船尾の船外に描かれた右下がりの 3 本の描線は^{かじ}舵を兼ねた^{かい}櫂か?

船尾の旗のなびく方向 (右→左) と竿のしなり (左→右) が異なる。





2 だれが何のために描いた？

(前提条件) この土器は日常使われる壺で、墓にお供えするとかの特別な形の土器ではない。

仮説その 1

御領遺跡に住んだ弥生人が描いた・・・(とすると)

何のために？ 遺跡の近くで今まで見たこともない大きく立派な船を見たから記念やみんなに自慢して話をする、記憶に残すため・・・などか？

(とすると) 御領遺跡の近くに大きな船(交易船?)が着く港があった。
瀬戸内海にこうした大型船が時折でも行き来していた。

仮説その 2

よその人(備後地方以外の人)が描いた・・・(とすると)

どこの人？ 土器の形の特徴は、西瀬戸内地域(※1)に特有の複合口縁(※2)

※1 西瀬戸内・・・伊予・安芸・周防・長門・豊前・豊後の沿岸部

※2 複合口縁・・・土器の口の形が一旦開いて、内側に折れ曲がる口縁形態

土器の粘土の感じ(色や砂の混じり具合や砂の質など)は伊予(今治)の土器に似ている。がしかし、備後(御領遺跡周辺)にも似たものは多い。



第2図 弥生時代後期の複合口縁土器の文化圏と御領遺跡の位置
(『図解・日本の人類遺跡』東京大学出版会 1992 p119 に一部加筆)



第3図 複合口縁土器のかたちと船の絵が見つかった土器の部分

何のために？ 壺に貴重なモノ(鉄器や顔料、宝石、薬草、舶来の品物など)を詰めて、御領遺跡
大きな船(交易船)に載せて御領遺跡の近くの港に商売に来た？

(とすると) 御領遺跡の近くに大きな船(交易船?)が着く港があった。
瀬戸内海にこうした大型船が時折でも行き来していた。

以上のことから、ちょっと空想・・・(^ ^)；

『魏志倭人伝』にいう「始度一海千餘里至對馬國(初めて一海を渡ること千余里、對馬國に至る)・・・」のような倭国と魏の使者の行き来にはこんな船が使われていたと考えられる。

⇒⇒⇒

第4図 中世の芦田川下流域の海岸線想定図と御領遺跡
(佐藤昭嗣「潟湖であった神辺平野」『両備軽便鉄道に見る歴史ロマン』(公財)福山市観光協会 2013 p17 に一部加筆)





第 5 図 出土した縄文時代の丸木舟 (滋賀県・水葦内湖遺跡) (大阪弥生文化博物館『弥生人の船』2013 p69)



第 6 図 周防灘を実験航海した縄文時代の丸木舟 (愛媛新聞社『よみがえる伊予の古代展』1985 p111)

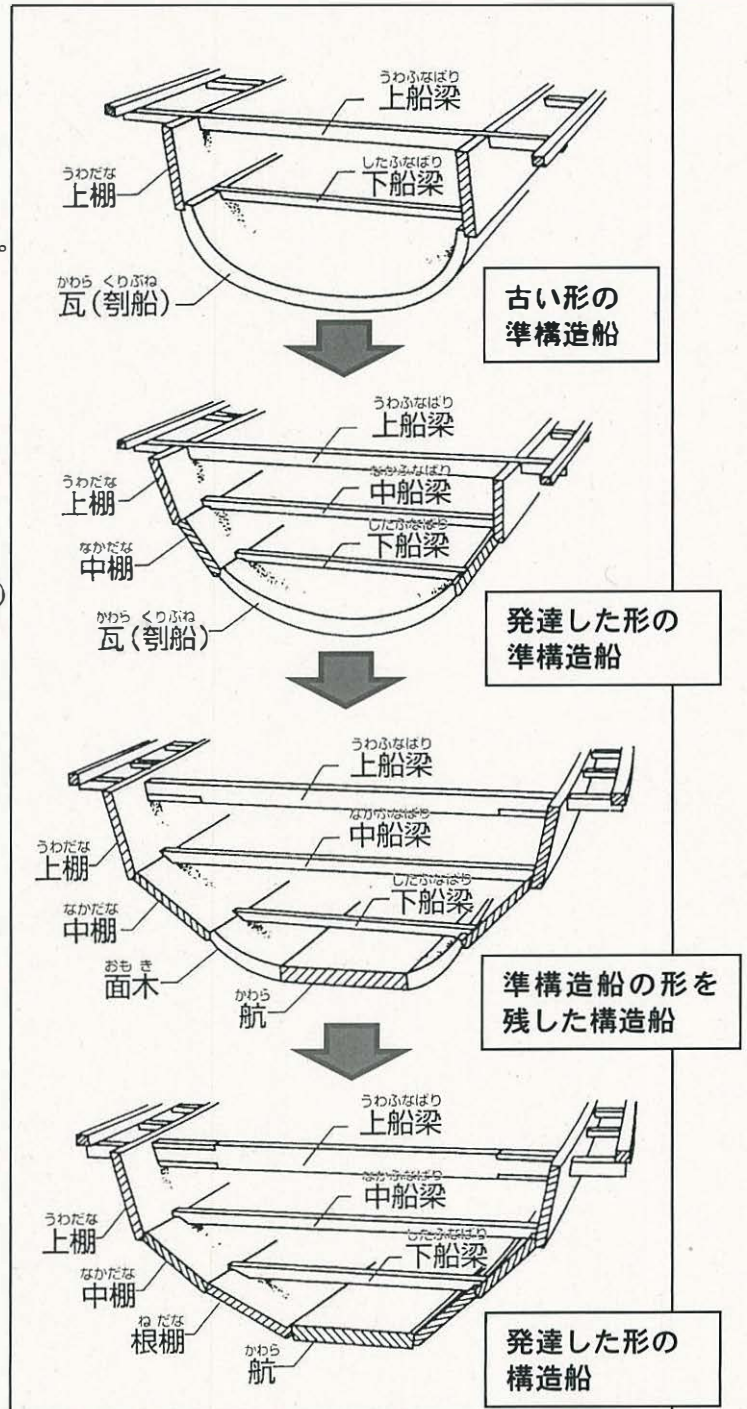
3 弥生時代の準構造船

日本の縄文時代の遺跡から出土する丸木舟(単材刳船)は、巨木を半分に割り、内部を削り抜いたもので、世界的に共通する最も原始的な船の作り方で作られています。大きなものでは、長さ7m、幅は0.7mほどのものが知られています。

大陸から新しい技術や人たちが日本列島に渡ってきた弥生時代には、新しい船の作り方も伝わり、それまでの丸木舟に船板(舷側板)や船首材(波よけ板・豎板)などを取り付け大型化した準構造船(複材刳船)が作られるようになります。

こうした弥生時代以降の大型船(準構造船)は、廃船されると大型部材は他の建築材などとして転用されるため、出土例は多くありませんが、主に弥生時代中期以降の準構造船の部材が、北部九州から東海地方から見つかっています。

弥生・古墳時代の船のようすを伝えるものに、土器などに描かれた絵があります。多くは、縄文時代以来の丸木舟を描いていますが、今回の御領遺跡の船の絵のようにかなり大型の船(準構造船)を描いたものもあります。なかでも御領遺跡のものは、屋形と旗のある最も格式の高い船です。



⇒⇒⇒

第 7 図 準構造船から構造船への発展過程の船の構造 (石井謙治監修『復元するシリーズ④ 日本の船を復元する 古代から近世まで』学習研究社 2002 p23)





4 弥生人と船

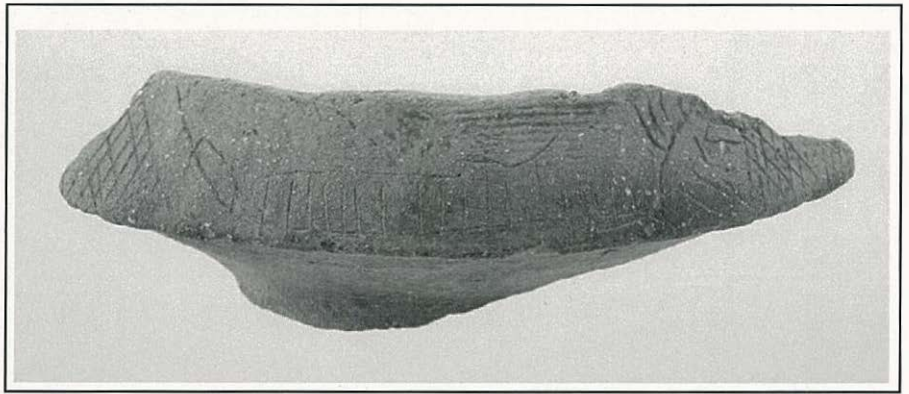
江戸時代の千石船にいたる和船と総称される日本の木造船の出発点は、丸木舟に板材を継ぎ合わせた弥生時代の準構造船にはじまります。

製材用の鋸や鉄釘のない弥生～古墳時代の準構造船は、鉄斧やヤリガンナなどで板材を平らにして、ホゾ穴を開けて桜の皮などで縫い合わせて、大きな船にしています。

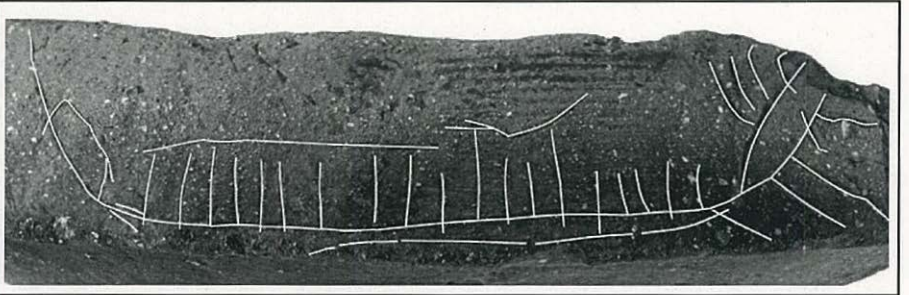
船底材は、丸木舟が使われるため、水漏れの心配は有りませんが、幅に限られる(約1m)ため、大きな船にするのは難しかったようです。

こうした弥生時代に始まる準構造船は、本格的な製材用縦挽き鋸が登場する中世ごろまで、大陸に渡る遣唐使船などにも使われた技術でした。

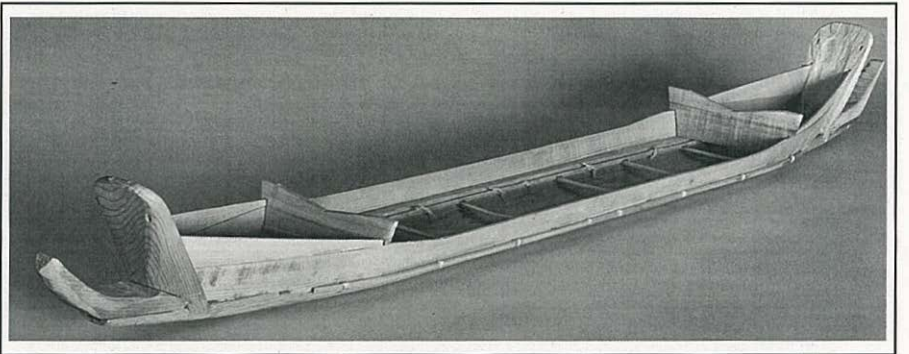
弥生時代は、『魏志倭人伝』が伝えるように大陸と人や物の行き来が盛んになる時代です。弥生人の大陸へのあこがれや夢が感じられる船です。



第 8 図 御領遺跡の船の絵のある土器



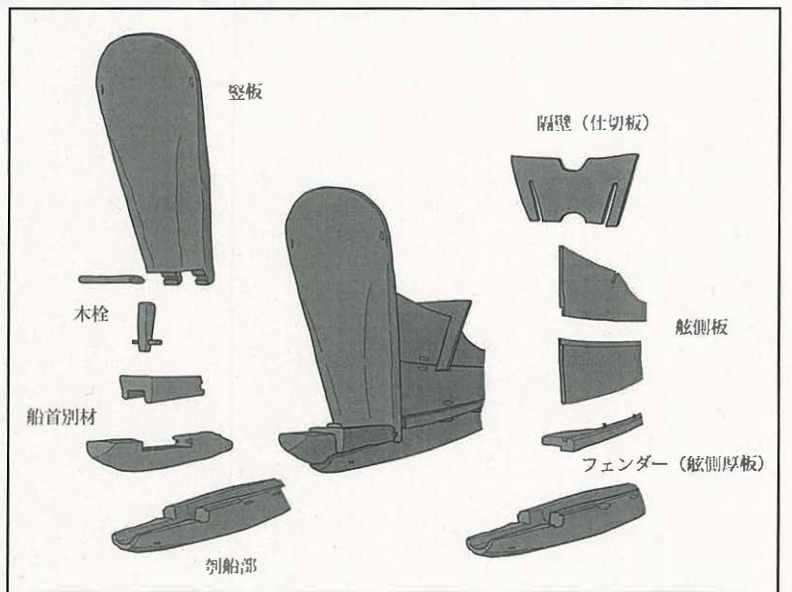
第 9 図 同上の船の絵(白線)



第 10 図 弥生時代終末～古墳時代前期の準構造船の復元模型 (大阪府八尾市・久宝寺遺跡) (大阪弥生文化博物館『弥生人の船』2013 p9)



第 11 図 出土した弥生時代終末～古墳時代前期の準構造船の実物 (大阪府八尾市・久宝寺遺跡) (大阪弥生文化博物館『弥生人の船』2013 p19)



第 12 図 出土した弥生時代終末～古墳時代前期の準構造船の部材と組立図 (大阪府八尾市・久宝寺遺跡) (大阪弥生文化博物館『弥生人の船』2013 p19)

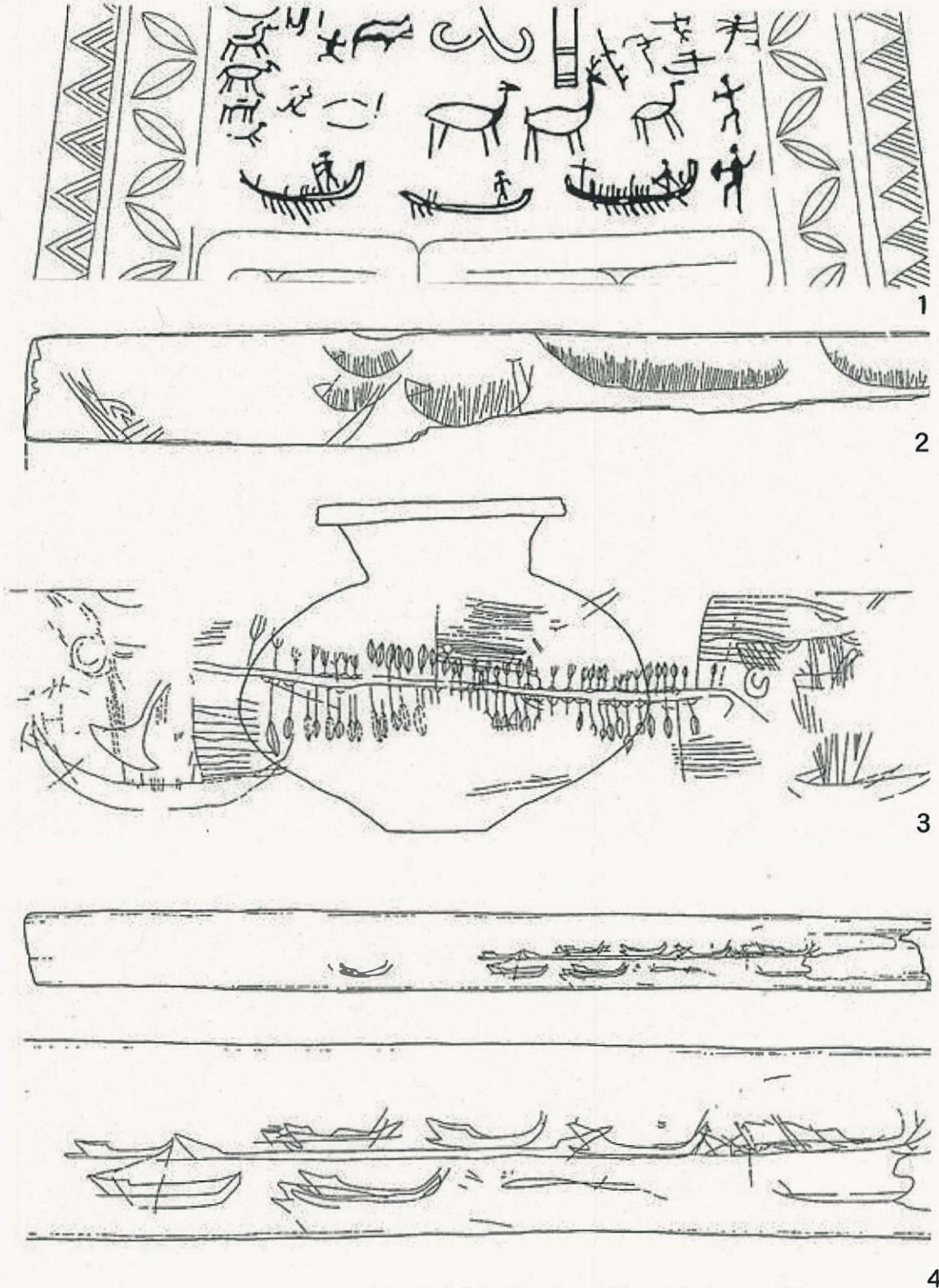




講演

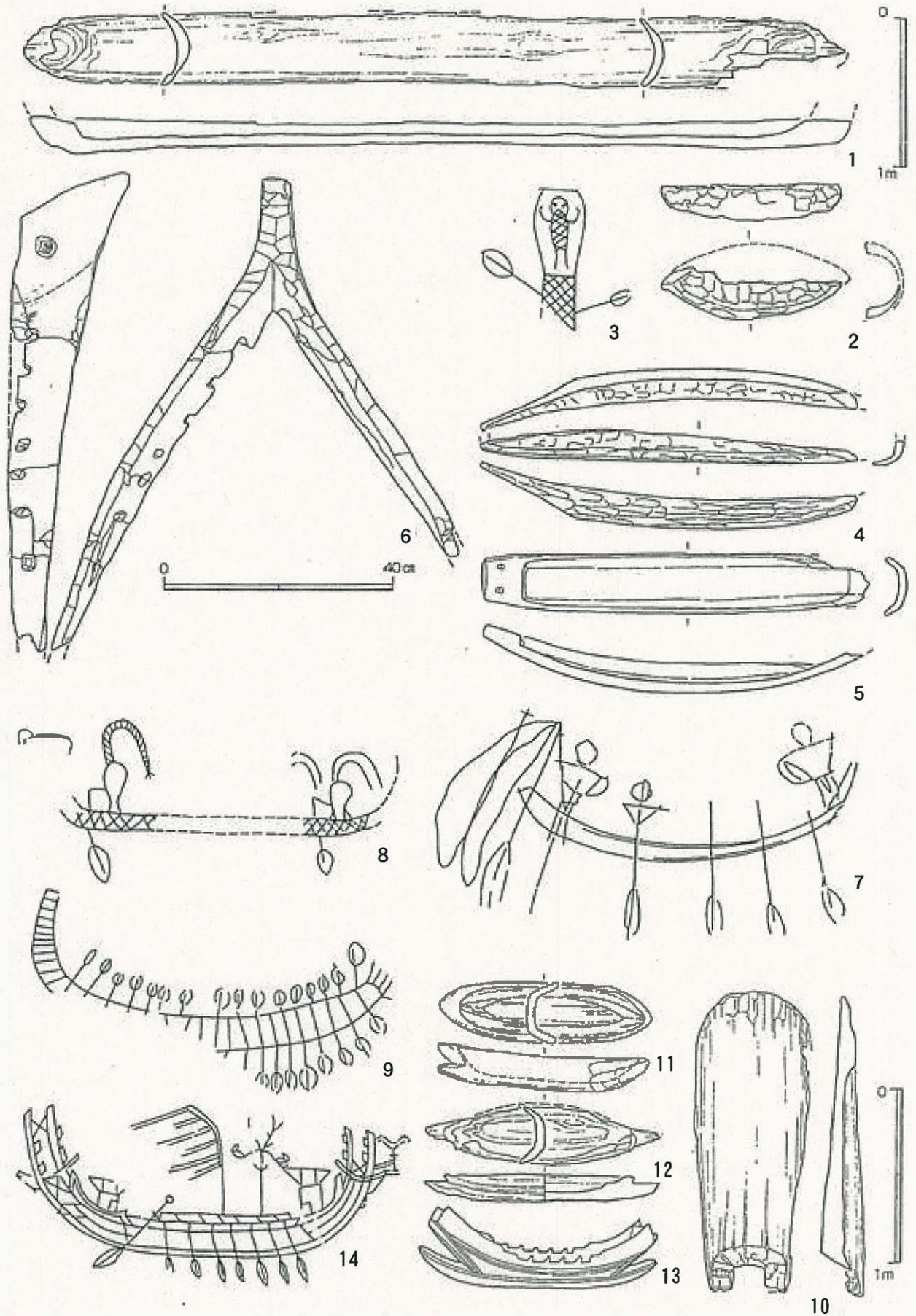
描かれた日本古代の船

(前) 奈良文化財研究所 副所長 深澤芳樹



第1図 弥生～古墳時代の船団 (1福井・井向 2鳥取・青谷上寺地 3岐阜・荒尾南 4兵庫・袴狭)
(1 銅鐸 2・4 板 3 土器)





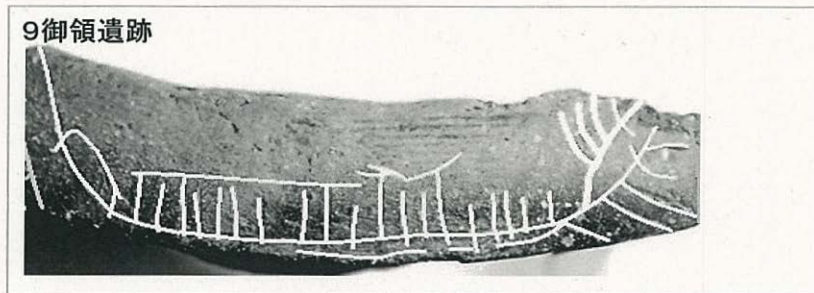
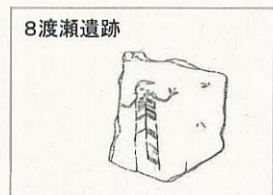
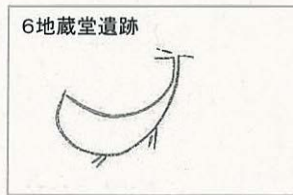
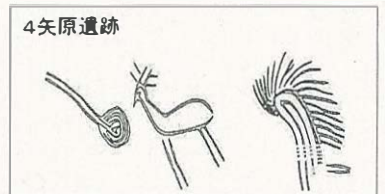
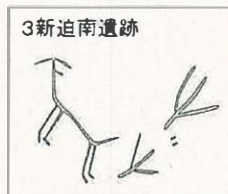
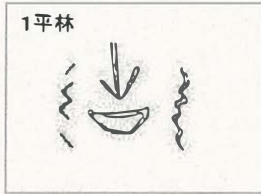
第2図 縄文～古墳時代の船 (1滋賀・松原内湖 2兵庫・丁・柳ヶ瀬 3・7奈良・唐古・鍵 4大分・下郡群
5鳥取・青谷上寺地 6静岡・角江 8鳥取・稲吉角田 9奈良・清水風 10大阪・久宝寺南 11京都・古殿
12奈良・平城京左京三条二坊 13大阪・高廻り2号墳 14奈良・東殿塚古墳)
(1・6・10部材 2・4・5・11・12船形木製品 3・7～9土器 13・14埴輪 なお部材以外縮尺不同)



広島県出土の弥生土器絵画資料

(参考資料1)

番号	遺跡名	所在地	絵画	器種	時期	備考
1	平林遺跡	広島市東区温品	不明	壺?	後期?	
2	鏡西谷遺跡	東広島市西条町鏡山	不明	壺	中期後半	
3	新迫南遺跡	安芸高田市高宮町	鹿・鳥	壺	中期後半	
4	矢原遺跡	三次市三和町	鹿・鳥装人物	脚付鉢	中期後半	
5	土森遺跡	三次市三良坂町	不明	壺	中期後半	
6	地蔵堂遺跡	福山市駅家町	鹿	壺	中期後半	
7	亀山遺跡	福山市神辺町道上	建物	壺?	後期	
8	渡瀬遺跡	福山市神辺町	人物	壺	後期	
9	御領遺跡	福山市神辺町上御領	船	壺	後期	



広島県の弥生土器絵画の分布

全国の弥生土器の船の絵画資料

番号	遺跡名	所在地	器種	時期	備考
1	原の辻遺跡	長崎県壱岐市	甕棺	後期	
2	樟味高木遺跡	愛媛県松山市	壺	後期	
3	下経田遺跡	愛媛県今治市	壺	後期	
4	新谷森ノ前遺跡	愛媛県今治市	鉢	後期	
5	明地遺跡	山口県熊毛郡田布施町	壺?	後期	
6	御領遺跡	広島県福山市	壺	後期	
7	城遺跡	岡山県倉敷市	壺	中期後半	
8	足守川加茂A遺跡	岡山県岡山市	壺?	後期	
9	茶畑山道遺跡	鳥取県西伯郡名和町	壺?	後期	
10	稲吉角田遺跡	鳥取県米子市	壺	中期後半	
11	妻木晩田遺跡	鳥取県西伯郡大山町	壺?	中期後半	
12	東奈良遺跡	大阪府茨木市	壺	後期	
13	小阪合遺跡	大阪府八尾市	壺?	後期	
14	清水風遺跡	奈良県天理市	壺	中期後半	
15	唐古・鍵遺跡	奈良県磯城郡田原本町	壺	中期後半	
16	坪井・大福遺跡	奈良県桜井市	壺?	中期後半	
17	小谷赤坂遺跡	三重県松阪市	壺	後期	
18	北道手遺跡	愛知県一宮市	壺?	中期後半	
19	荒尾南遺跡	岐阜県大垣市	壺	後期	
20	三和町遺跡	静岡県浜松市	壺	後期	
21	中道・岡台遺跡	埼玉県朝霞市	壺	後期	
22	天神台遺跡	千葉県市原市	壺	後期	
23	富士見台遺跡	千葉県富津市	壺?	後期	

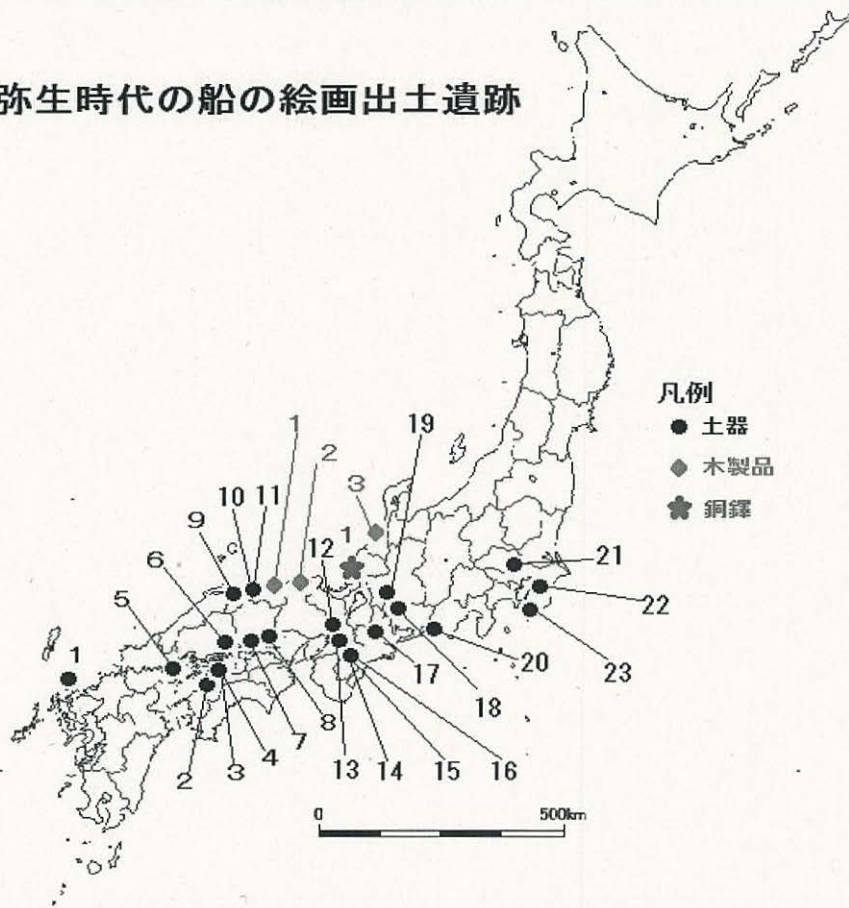
木製品の船の絵画資料

番号	遺跡名	所在地	器種	時期	備考
1	青谷上寺地遺跡	鳥取県鳥取市	木板	後期	
2	袴狭遺跡	兵庫県豊岡市	木板	後期	
3	八日市地方遺跡	石川県小松市	琴	中期	

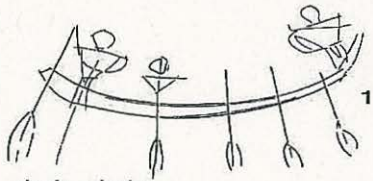
銅鐸の船の絵画資料

番号	遺跡名	所在地	器種	時期	備考
1	井向遺跡	福井県坂井市	銅鐸	中期	

弥生時代の船の絵画出土遺跡



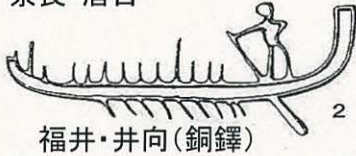
弥生時代の船



奈良・唐古



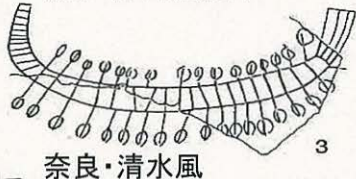
奈良・唐古



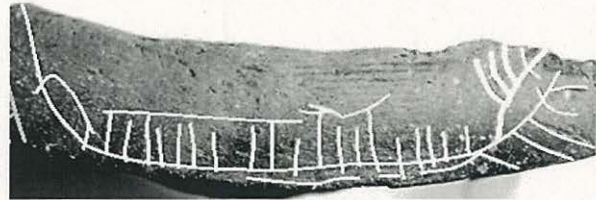
福井・井向(銅鐸)



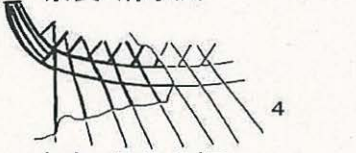
愛媛・樽味高木



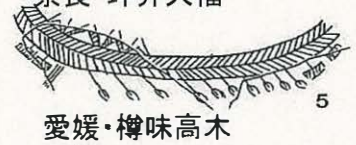
奈良・清水風



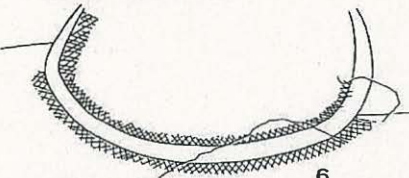
広島・御領



奈良・坪井大福



愛媛・樽味高木

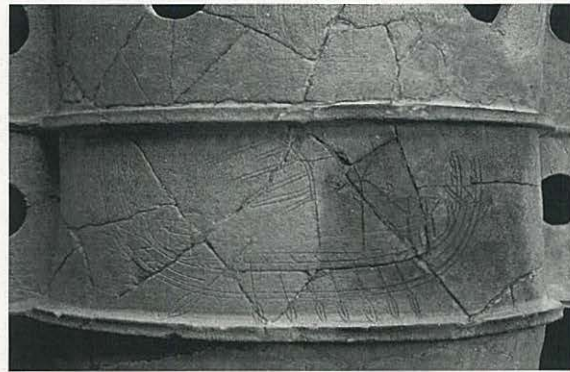


岡山・城

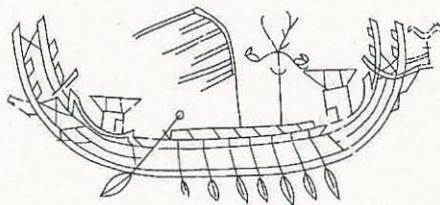


長崎・原ノ辻

古墳時代の船



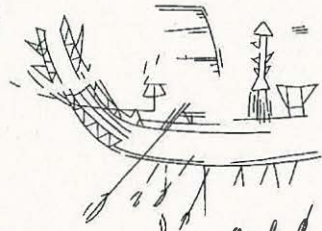
奈良・東殿塚古墳(埴輪)



1 奈良・東殿塚1



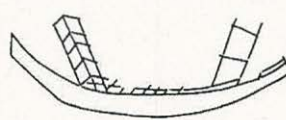
2 奈良・東殿塚2



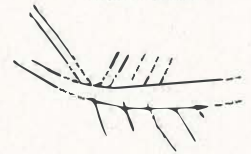
3 奈良・東殿塚3



4 奈良・唐古



5 京都カラネガ丘2号1



6 京都カラネガ丘2号2

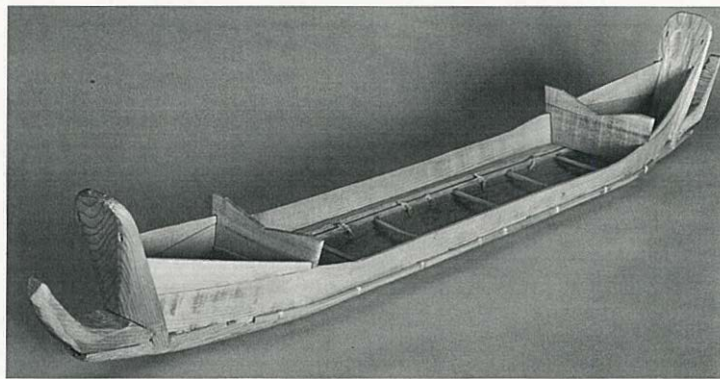
各地の古墳の埴輪の船絵

丸木舟と準構造船

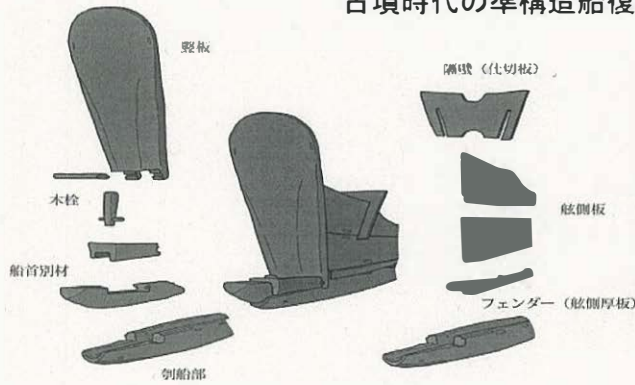
(参考資料 4)



19世紀の北方民族の丸木舟



古墳時代の準構造船復元模型



古墳時代の準構造船の部材

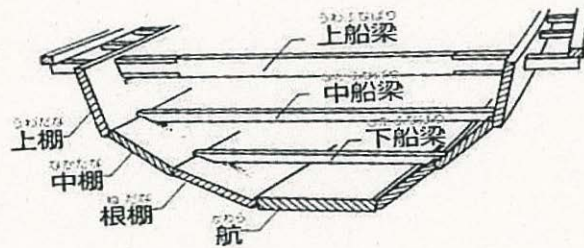
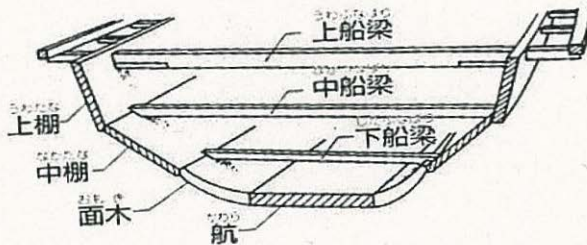
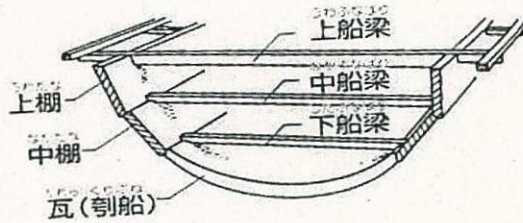
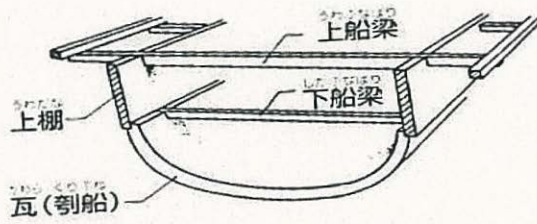


出土した古墳時代の準構造船
(大阪・久宝寺遺跡・4世紀)

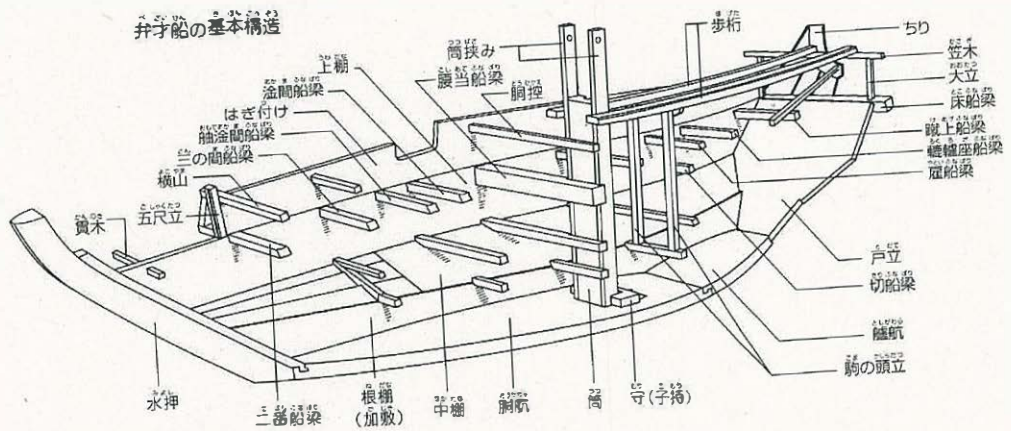


古墳時代の準構造船の船形埴輪(大阪・土師の里遺跡・5世紀)

準構造船から構造船への発展(石井謙治監修『日本の船を復元する』学研2002 p23より)



江戸時代の構造船(弁才船(俗称千石船))の構造(同上書 p122より)



原始・古代の船の変遷

